筑波研究学園都市研究所･大学関係９条の会

研･学９条の会ニュース　No.66

2019 年 10 月発行

〒300-2667 つくば市中別府 591-7
電話/Fax 029-847-3884
(http://peace.arrow.jp/tsc)

ニュース編集会議から

64 号から研･学九条の会のニュースの編集体制が変わり、今号で３号目です。会員の皆様から投稿が３件ありました。おかげで、会のニュースを発行できるメドがたちました。今後も投稿を宜しくお願いします。８月に発表された防衛装備庁の「安全保障技術推進制度」の採択結果について、軍学共同反対連絡会のニュースレターNo.36 を参考に記事を編集しました。

防衛装備庁の「安全保障技術研究推進制度」の新規採択結果について

８月３０日に本年度の防衛装備庁の「安全保障技術研究推進制度」の採択結果が発表された。応募件数は５７件で昨年度より１６件減少し、採択は１６件となった。大規模研究課題について、募集を充足できなかったため、２次募集されることになった。

- 大学からの応募

大学からの応募件数は２０１５年度の５８件から減り続け今年度は８件となった。日本学術会議が出した「新声明」（2017 年 3 月 24 日）に多くの大学がこれに呼応して応募しないことを自主的に決めてきたことがこの結果につながっているものと思われる。

- 公的研究機関からの応募

これに対して公的研究機関は 22 件（17 年度）⇒12 件（18 年度）⇒15 件（19 年度）と推移しているが、常連の研究機関が登場してきている。即ち物質・材料研究機構をトップに、宇宙航空研、海洋研究開発機構があげられる。今後、この推進制度の主要な担い手になっていく可能性がある。物質・材料研究機構の理事長の橋本氏は内閣府総合科学技術イノベーション会議の委員で官邸主導の科学技術政策を牽引し、大学を産業界と結合させようとする人物です。物材機構はこれまで共同研究も含めると 12 件、今年度だけでも 6 件採択を獲得しています。

- 企業からの応募

企業から応募は相変わらず多いが、55 件（17 年度）⇒49 件（18 年度）⇒34 件（19 年度）で減少しており、特に大規模研究課題の応募が激減し、装備庁として 2 次募集を行うことになった。3 年間で 20 億円という金額は、ベンチャー企業や中小企業にメリットがあっても、大企業にとっては、中途半端な金額で使いづらいのかもしれません。

今年度の採択結果の概要

大規模研究課題（ タイプ S）総額 20 億円以下、5 年間

1. 固体レーザー材料に関する基礎研究
   エスシーティー株式会社、分担：大学、企業等３
2. 革新的な水中通信センシング及び電力輸送に関する基礎研究、一般社団法人全国水産技術者協会、分担：企業２
3. 赤外線領域における新たな知見に関する基礎研究
   東レ

小規模研究課題（タイプ A）3900 万円以下/年、3 年間

1. 化学物質検知技術に関する基礎研究
   大阪市立大学（山田洋介）注）2 度目
2. 赤外線領域における新たな知見に関する基礎研究
   宇宙航空研究開発機構、分担：企業
3. 革新的な航空機等の推進装置に関する基礎研究
   物質・材料研究機構、分担：企業等
4. 生物模倣による効率的な移動体に関する基礎研究
   物質・材料研究機構、分担：企業等
5. 多数の移動体の協調制御に関する基礎研究
   クラスターダイナミックス株式会社
6. 革新的な水中通信、センシング及び電力輸送に関する基礎研究　株式会社トリマティス、分担：公的研

究機関

7. 革新的な水中通信、センシング及び電力輸送に関する基礎研究、マクセル株式会社

小規模研究課題（タイプ C）1300 万円以下/年、3 年間

1. 生物模倣による効率的な移動体に関する基礎研究
   山口大学（岩楯好明）
2. 革新的な船舶技術に関する基礎研究
   海上・港湾・航空技術研究所
3. 先進的な耐衝撃・衝撃緩和材料に関する基礎研究
   物質・材料研究機構
4. 化学物質検出技術に関する基礎研究
   物質・材料研究機構
5. 革新的な航空機等の推進装置に関する基礎研究
   物質・材料研究機構
6. ナノ構造表面に関する基礎研究
   株式会社　GSI　クレオス

投稿（2019 年 8 月 10 日）

目に余る嫌韓

稲垣隆雄（KEK 九条の会）

徴用工問題を端緒に、参議院選挙中から、韓国向け輸出の規制強化が打ち出され、日韓関係が極度に悪化している。今回の事態は、安倍内閣が仕掛けたものである。その仕掛けは、多くの国民から支持され、参議院選挙での与党の勢力維持に貢献した。「協定で、請求権は放棄されている。韓国は国際法違反を犯している。」、とか、「そういった国だから、機密を守れない。」という論が、流布している。テレビのワイドショウでは、「韓国は必ず負ける」といった『勝敗』にこだわったサッカー戦のような意見が溢れている。「今回の事案は、個人が企業から受けた耐えがたい被害に対する請求権で、協定合意には含まれていない」とか、「具体的にどういう機密漏れがあったのか」は、ほとんど語られていない。だから、いったいどういう解決を求めているのかさえも明らかではない。そもそも、韓国の司法判断を、行政がどう抑え込んだらいいのだろうか？一体、安倍首相は文大統領に何を要求しているのだろうか？解決策を提示し、探っているわけではない。無策である。

やっていることは、嫌韓を煽っていることに他ならない。こういった手は、政策につまった政権がとる「常とう手段」のようだが、なぜ、こんなことをするのだろう。すぐ隣の、友好国のはずである。もう少し、納得できる理由はないかと思っていた。7 月 30 日のしんぶん赤旗の文化・学問の欄に出た棚沢健さんの文芸時評に、その理由の一つとして納得できる文があった。その一部分を引用する。

“2017 年、日本では第 3 次韓流ブームが湧き起こった。訪韓日本人は過去最多を記録する一方、日本を訪れる韓国人も過去最多を記録する。中心は 20 代から 30 代の女性である。韓国では朴前政権を退陣に追いやった「キャンドル革命」を支えた世代と重なる。交流はファッションやグルメにとどまらず、文学、映画、芸能など、さまざまな領域に及んでいる。200 万人を超える街頭「革命」の熱気は、国境を越えて日本にも伝わっている。（中略）おそらく若い世代を中心に、日韓の間で交流＝伝染する「革命」の熱気を阻止、分断すべく、安倍政権と一部マスコミによる嫌韓排外主義の策動が、今後ますますエスカレートしていくだろう。”

翌日、その文芸時評に、異例の売り上げのトピックスとして評論された河出書房の雑誌・文藝・秋季号を、図書館に見に行った。禁帯出で大部なので、韓流文学ブームのけん引者の一人である斎藤真理子氏の対談、とチョ・ナムジュ著、斎藤真理子訳の「家出」を読んだ。「家出」は、突然姿を消した父を家族と共に心配する娘が、少し前に父にあげたカードの利用明細が、送られてくるようになって、家出の理由は依然として分からないが、これもありかと思うようになっていく、といった筋立ての短編である。対談で解説されているように、従来の韓国文学に多い、戦争や貧困、憎悪と怒り、といった「大きな問題」ではなく、日本の私小説文学に近いものである。しかし、その短編は、シンプルでピュアな読後感を残した。10 年以上前に、沖縄の歌を聞き始めた時に感じた、可憐だが、踏みつぶされないという感想に近いものだった。

そして、日本で 13 万部売れて、韓国で 100 万部売れている、同じくチョ・ナムジュ著の「82 年生まれ、キムジョン」（斎藤真理子訳）を予約した。驚いたことには、つくば図書館に 8 冊もあるのに、予約待ち 43 番目だった。解説では、この本の主題は、ジェンダー問題のようだが、日韓の若い女性たちが、同じように、考え、悩む姿が浮かぶ。それは、余りにも露骨で激し

い昨今の嫌韓に対して嘆く私の気持ちを、少し和らげてくれる。

投稿（2019 年 9 月 2 日）

腹が立ってしょうがない「韓国報道」

塩谷哲夫（土浦市在住）

テレビは毎日、長時間にわたって、まるでバラエティー番組のように韓国“蔑視”の報道を流している。私は腹が立ってしょうがないから、「アッ、またやってる」と早々にチャンネルを切り替えるか、テレビを消してしまう。

特に最近の「玉ねぎオトコ」についての微に入り細にわたっての生まれ育ちのから記者会見の模様にはあきれ返る。こんなものを流していれば日本人の視聴者は喜ぶのだろうか？（こんなことで視聴率が稼げるとしたら困ったものだ。）

日本の安倍首相が組閣…大臣を決めるらしいが、テレビは、こんなに洗いざらい身元調査をして報道するだろうか？－そしたら、みんなアウトかも？　また、私たちにとっては、韓国の粗探しよりも、森友や加計の本当のところを徹底的に報道してほしいものだ！…と言いたい。そうそう、先の参議院選挙でも、テレビでは通り一遍の報道しかなかった。それに輪をかけて、日韓関係、日米貿易交渉、年金・消費税、等々、政治・経済の問題が山積みなのにこの２か月間、国会も開かれていない！日韓関係の深刻な悪化の根本原因は、日本が「大日本帝国」が進めてきた植民地支配の誤りを（韓国だけでなく中国をはじめ、多くのアジア諸国民に対しても）、戦後に部分的な、一時的な反省はあったが、日本国民としてしっかり反省していないことにあるのではないだろうか（＊１。特に、現在の安倍政権には、はっきりとした“復古”の思考があり、それに共鳴する様々な論調を煽っている（＊２。

軍国日本が「国家総動員法」に基づいて朝鮮半島から徴用してきて日本の企業で強制労働させた「徴用工」の被害者に対して、日本を代表する政府は、彼等の尊厳を回復させる責任がある。日韓請求権協定などで復興に苦闘していた韓国政府に「金を払った」からと言ってチャラにして終わりだと突っぱねて、挙句の果てに「対韓貿易規制」で報復するのは“大国日本”のとるべき道ではないと私は思う。

韓国には“韓国”の文化があり、政治の民主主義はまだまだ発展途上にあることを理解して、粘り強く、外交交渉を通じて対応すべきではないだろうか。同様に、現在の安倍政権の「大日本帝国主義」的日本復興の思想に惑わされることなく、1945 年の敗戦を機にハラを決めた、現在の『憲法』思想の実現の方向に向かうようにしたいと思う。

参考：

＊1；熊谷徹，日本とドイツ－二つの「戦後」，集英社新書，2015.

＊2：山崎雅弘，歴史戦と思想戦，同，2019.

書評投稿（2019 年 8 月 25 日）

「徳川家の見た戦争」

佐藤　皓（KEK 九条の会）

中３の孫が戦争に関する本を読み感想を纏めるという夏休みの宿題が出され、図書館で岸谷美穂著「イラクの戦場で学んだこと」、徳川宗英著「徳川家が見た戦争」を借りてきて読んでいるのを見て、ふと「徳川家が見た戦争」に興味を持ち読んでみました。特に印象的だったのは「日本が関わった戦争は、蒙古来襲以外はすべてが日本が仕掛け侵略した」という視点が全編に貫かれていることである。KEK9 条の会の集まりで韓国の徴用工問題を議論する中で、「日本が加害者だった」ことを押さえておくことが肝要だという論点があった。この時は漠としていたのだが、本書によって明快に思い知らされた感がした。

著者は田安徳川家 11 代当主で張作霖爆殺事件の起きた 1929 年ロンドン生まれ。本を見かけた時は「徳川 260 年の治世を述べる内容かと思ったのだが、読んでみると大分違っていた。明治維新後紆余曲折はありながらも徳川家は一応華族として処遇されており、いわゆる上流階級に属し貴族院議員も多く出している。著者も学習院初等科中等科を経て海軍兵学校江田島本校に入校し、そこで終戦を迎える。5 章立てで書かれており、第 1 章は「私が体験した昭和の戦争」、第 2 章は「戦争がなかった江戸時代」、第 3 章は「なぜ日本は無謀な太平洋戦争を始めたのか」、第 4 章は「過去の日本の戦争から何を学ぶのか」、第 5 章は「徳川家が体験した昭和の戦争」となっている。

冒頭に述べたように「日本が関わった戦争は、蒙古

来襲以外はすべてが日本が仕掛け侵略した」という視点から、中国や朝鮮に侵略して多大な被害を与えたということを反省すること無く、戦後問題を語ることはできないと。それと、無謀な戦争に突き進んだ背景には食糧とエネルギー（石油）問題があったとして、現在の状況と対比させて警告している。

過去の過ちを忘れず現代に教訓として生かすためには、戦争の悲惨さを伝える記念館やモニュメントが大事であるが、日本にあるそれらはヨーロッパの国々や中国、朝鮮と比べて極めて少なく、かつ「日本は戦争の加害者であった」という内容のものが少ないという。

格差社会が進行していると言われる現在であるが、著者は格差社会を表す一つの指標「ジニ係数」をもって現在に警告を発している。ジニ係数は所得分配の不平等さを示す指標で「１」に近いほど格差が大きく、社会騒乱が多発する警戒ラインが 0.4 と言われている。富国強兵、殖産興業を推進していた時期、多くの職人が没落し、土地を手放す農民が多発、ジニ係数が 0.4 〜0.5 であったと推測されている。翻って現在のジニ係数は社会保障制度による再分配した後の値で 0.3791、再分配しない場合では 0.5536 だと言う。食糧自給率、エネルギー自給率と併せて危ない危ないということになると言う。

そして、アメリカ頼りでは日本の未来は危うい、スイスのような永世中立国（すなわち防衛軍は持つ）を提案する。

最後に八家ある徳川家のその後を述べて終わる。特に興味を引いたのは松平春嶽の 5 男、尾張徳川家 19 代当主の徳川義親である。25 歳で侯爵となり貴族院議員になる。登院して最初の演説で「貴族政治亡国論」を唱え、華族の特権を縮小し将来的には華族議員を廃止すると言ったとか。また、治安維持法にも反対したとのこと。結局は孤立して議員を辞職することになる。右派とも左派とも親交があり右翼がクーデターを計画したときに「人を殺さないこと」を条件に金銭的に支援したと。このクーデターは関わった陸軍首脳部が変心して未遂に終わったが、軍なしでもと右翼活動家が実行しようとしたのを説得し中止させたとか。一方で社会主義者とも付き合いがあり、戦後には社会党結成に関わり資金援助もし、顧問も務めたと。自叙伝の最後には「日本とアジアの再研究によって、民族の本来の姿を取り戻し、平和と自由と平等に生きる道をつくりだし、世界の平和に貢献することである。現状では地球そのものが破壊され日本どころか人類が壊滅してしまう。平和は言葉だけではだめなのである」と締めくくったとか。

他にも、玉音盤を反乱軍から守った「徳川義寛（幕末の尾張藩主慶勝の孫）、日本人初の航空パイロット、徳川好敏（清水徳川家８代当主）とか、徳川家の一族はこんなに各方面で活躍してるんだぞ、と結ぶ。

現在、昭和天皇に関する様々な資料が出てきて、「戦争には否定的であったが、天皇主権を持ってしても戦争への道を止められなかった」とか報道されているが、この本を読んでみても同様のことを感じる。一つ一つのところで歯止めをきちんとしていかないと、「ゆでがえる」状態になって、いかんともしがたくなってしまってはならない。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

講演会の案内

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

10 月 19 日（土）　14 時〜16 時半

沖縄のアイデンティティーと、日本の民主主義

元山仁士郎トーク in つくば

場所：市民ホールとよさと

住所：つくば市高野１１９７－２０

参加費：前売り８００円、当日１０００円

主催：憲法９条の会つくば

＝＝

事務局より

9 条の会ニュースの配布は、メールアドレスを登録されている方は、電子メールで、それ以外の方は郵送しています。

ニュースへの原稿を募集しています。

本会では「安倍 9 条改憲 NO! 憲法を生かす全国統一署名」をお願いしています。

これまでの賛同者数　８４３名（2019 年 9 月 30 日）

会へのお問い合わせは

安田公三　TEL/FAX：029-847-3884、

＝＝